日曜AM 9:00～9:30（フジテレビ系列）放送

ゲゲゲの鬼太郎（きたろう）

第71話

「オベベ沼の妖怪！」

フジテレビ

制作　読売広告社



東　映

企画	石井浩二（フジテレビ） 木村京太郎（読売広告社）
プロデューサー	蛭田成一
製作担当	樋口宗久
原作	水木しげる （コミックボンボン テレビマガジン たのしい幼稚園 おともだち）連載 （講談社）
シリーズディレクター	西尾大介

脚本	武上純希
演出	川田武範
音楽	和田薫
キャラクターデザイン	荒木伸吾
総作画監督	姫野美智
美術デザイン	浦田又治

作画監督	
美術	
原画	
仕上	
撮影	
編集	片桐公一

録音	今関種吉
音響効果	今野康之
選曲	西川耕祐
記録	小川真美子
製作進行	
演出助手	

【オープニング】

ゲゲゲの鬼太郎

作詞／水木しげる
作曲／いずみたく
唄・編曲／憂歌団
（wea japan）

ゲッゲッ　ゲゲゲのゲー
朝（あさ）は寝床（ねどこ）で　グーグーグー
たのしいな　たのしいな
おばけにゃ　学校（がっこう）もしけんも
なんにもない
ゲッゲッ　ゲゲゲのゲー
みんなで歌（うた）おう　ゲゲゲのゲー

ゲッゲッ　ゲゲゲのゲー
昼（ひる）はのんびり　お散歩（さんぽ）だ
たのしいな　たのしいな
おばけにゃ　会社（かいしゃ）も仕事（しごと）も
なんにもない
ゲッゲッ　ゲゲゲのゲー
みんなで歌（うた）おう　ゲゲゲのゲー

ゲッゲッ　ゲゲゲのゲー
夜（よる）は墓場（はかば）で　運動会（うんどうかい）
たのしいな　たのしいな
おばけは　死（し）なない　病気（びょうき）も
なんにもない
ゲッゲッ　ゲゲゲのゲー
みんなで歌（うた）おう　ゲゲゲのゲー

【エンディング】

カランコロンのうた

作詞／水木しげる
作曲／いずみたく
唄・編曲／憂歌団
(WEA JAPAN)

カランコロン　カランカランコロン
カランコロン　カランカランコロン
おばけがポストに　手紙(てがみ)を入(い)れりゃ
どこかで鬼太郎(きたろう)のゲタの音(おと)

カランコロン　カランカランコロン
カランコロン　カランカランコロン
ドッタンバッタ　ゴロゴロ
ギャアギャア　ギーギー　ドタドタ
どこかでおばけの　うめき声(ごえ)

カランコロン　カランカランコロン
カランコロン　カランカランコロン
ゲゲゲの鬼太郎(きたろう)　たたえる虫(むし)たち
どこかへ鬼太郎(きたろう)は　消(き)えて行(ゆ)く
カランコロン　カランカランコロン
カランコロン　カランカランコロン

登場キャラクター

役名	摘要	声の出演者
鬼太郎		松岡洋子
目玉のおやじ		田の中勇
ねずみ男		千葉繁
ねこ娘		西村ちなみ
○		
カワウソ		
寿太郎		
ヤクザＡＢＣ		
○		
ぬらりひょん		
朱の盆		

不良河童たち

1

おべべ沼近辺

キラキラ輝く、おべべ沼——。

その傍らの神社——お祭りをやっている。

2

神社の境内

ねずみ男、寅さん気取りであやしげなタンカ売をしている。

ズラリ、ハンパモンの時計をならべている。

ワイワイとたむろする、村の人たち。

ねずみ男「これは、そこにもある、ここにもあるって商品じゃねえ——花のお江戸は東京は神田、白木屋さんの倉庫が火事になり——なくなく出血大放出の、輸出用高級腕時計！　いつもだったら10万円はする、この時計が、今日は特別に三万円……」

黙って見ている、村人たち——

ねずみ男「二万円……、一万円……、ないかないか!?　ええいっ、もってけ泥棒っ！　三千円だいっ！」

ハッと顔色が変わる、村人たち――

村　人「一本もらった！」
村　人「おれもっ！」
ねずみ男「おすな、おすなっ！」

飛ぶように売れる、腕時計――。

ねずみ男「おすなってよーっ！」

と、殺到する村人たちに、押し潰されそうになる、ねずみ男あって――

――。

3　タイトル

『おべべ沼の妖怪』

4　同・お社裏

ねずみ男、お札を数えて――

ねずみ男「金だ、金だーっ！　たまんねえな一個三百円の時計が十倍の値段で飛ぶ

ように売れるんだからな、ウハウハだぜ」
　と、お札を財布に詰め込んで――
ねずみ男「この金で、ラーメンでも食いにいくか！　こんだけ、もうかったんだ、
　餃子つけてもバチはあたるめえ」
　と、そのとき、どこからか――
少年（声）「うーん、うーん……」
　ねずみ男、エッとあたりを見やる。
　と、神社の下を見やるとランニングに麦わら帽姿の少年が倒れている。
ねずみ男、「おいっ、どうしたんだ！　どっか体悪いのか？」
　少年、ウッスラと目を開けて――
少　年「オラ、腹へって死んじまいそうだ」
ねずみ男「！」

5　村の食堂

　あきれた表情のねずみ男――。
　ズズーとラーメンをすする、少年。

少　年「おかわりっ！」

少年の前にはラーメン丼が山になっている。

ねずみ男「おめえっ、もう、やめとけっ！　あんましいっぺんに食うと腹こわすぜ！」

少年、口をぬぐい――

少　年「ちぇっ、じゃ、あとで食べるから小遣いくれよ」

ねずみ男「じょ、冗談じゃねえ！　ラーメンおごっただけでもありがたく思え！

あんまし、人の善意につけこむんじゃねえ」

少　年「あっ、そう」

と、ラーメン屋のおじいさんを見やり、

少　年「このおっちゃん、いい時計してるね」

イッとなる、ねずみ男――。

少　年「ねっ、おじさん、それ、ねずみ男から買ったんだろ？」

ラーメン屋「ああ、安くってね」

少　年「でもね、その時計ほんとは幾らするか、知ってる！」

ラーメン屋「さあな」

ねずみ男「おめえ、まさか」

少　年「三千円のその時計、ほんとは、ね」

ねずみ男「まったあ」

ねずみ男、あわてて少年の口をふさぎズルズルと引きずっていく。

6　同表

ねずみ男、財布を取り出し、その中から千円札を取り出す。

ねずみ男「口止め料だ……、まったく、金にきたねえとろくな死に方しねえぜ!!」

と、札束で膨れている財布を横目でみる少年――。

少　年「そんなにもらっていいの?」

ねずみ男「ずるがしそうに見えて、やっぱ、ガキだぜ――くるしうない、さっさともってけ!」

少　年「ほんと?」

ねずみ男「ほんとにほんと、さっ!」

と、片手に千円札、片手に財布――。。

少　年「じゃ、遠慮なく!」

――と、さっと財布のほうを取って、ダッと駆けていく。

少　年「黙っててやるからさ！」

ねずみ男「ああーっ！　おめえにやるのは、こっちのほうだ！　財布を返せどろぼー！」

と、千円札をふりまわしながら叫ぶ。

と、背後に立つラーメン屋――。

ラーメン屋「ラーメン五杯、三千円……」

ねずみ男、汗タラリと――

ねずみ男「もう、一声！」

と、ボカッと殴られる、ねずみ男。

7　おべべ沼・ほとり

少年、財布の中身を数えながらやって来る。

少　年「へっへっへっ！　あのねずみ男、悪党のくせに、お人良しだぜ。天涯孤独の身の上にゃあ、金だけが味方だぜ」

と、背後の草むらから――

朱の盆（声）「テヘヘヘヘ……」

ハッと、財布をポケットに突っ込み

少　年「誰だ⁉」

と、草むらからガサゴソと出てくる、朱の盆。

そのまわりに悪ガッパたち。

8 森の奥

朱の盆に連れられて来る、カワウソ。

深い森の奥に庵が設えられている。

9 庵

御簾の向こうに布団がしかれ、頭に紫の鉢巻きをして臥せっている、ぬらりひょん。

その前の座敷に、座る朱の盆——そしてカワウソ——

朱の盆「ぬらりひょん様は、悪魔ブエルとの戦いにボロ負けされて臥せっておられる」

ぬらりひょん「朱の盆！　ボロ負けだけ、よけいだっ！」
朱の盆「す、すみませーん」
ぬらりひょん「おっほん！　思わぬ怪我でふせってしまったが……。再起の日は近い！　ところで、再起のまえに資金かせぎと、鬼太郎つぶし、いっきょにやっておきたいと思ったのだ……、そこでカワウソ、おまえのペテンの能力を貸して欲しいと思ったわけだ！」
ぬらりひょん「どうだ、カワウソ！」
カワウソ「イッヒヒッヒッ、人をだます話だったら、のらないでもねえ」
ぬらりひょん「そうか！」
カワウソ「ただし、そのまえに小遣いくれよ！」
　ガクッとこけるぬらりひょんと朱の盆。
朱の盆「おめえっ、ぬらりひょん様になにをいうんだ！」
　カワウソ、ヒョウヒョウと耳などをほじりがら——
カワウソ「だって、こら、ビジネスだろ？　頼むほうが資本金出すのはあたりまえだ」
　あきれ顔のぬらりひょん——
ぬらりひょん「たしかに見どころありそうなやつだ……」

10 ゲゲゲの森

深いゲゲゲの森の奥、鬼太郎の家があり――

11 鬼太郎の家

ノンビリと茶碗風呂に入っている目玉おやじ――そのまわりに鬼太郎とねずみ男――。

ねずみ男「おらぁ、人を騙すのには慣れてるが、人に騙されるのはショックだあ」

目　玉「それはおべべ沼のカワウソだな」

ねずみ男「カワウソ？」

目　玉「天涯孤独の妖怪じゃ。人を騙すのとお金が大好きな、困ったやつじゃ」

と、飛び込んで来る、ねこ娘。

ねこ娘「鬼太郎、これ、知ってる⁉」

と、ケース、もって来る。

鬼太郎「なんだい、それは？」

ねずみ男「キタロンZ⁉　栄養剤か？」
ねこ娘「鬼太郎の汗と涙のエキスからつくったドリンクで、飲むと妖怪なみのパワーがつくって……」
ねずみ男「ほんとだ、おめえの推薦って書いてあるぜ」
　エッと驚く、鬼太郎と目玉――
目　玉「なんじゃと⁉」
鬼太郎「そんな、ぼくが知るわけないでしょう⁉　どこで売ってるんですか、こんなもの！」
ねこ娘「おべべ沼にドリンクスタンドがあるんだって……」
　一同、ハッと顔を上げて――
一　同「カワウソ！」

12 おべべ沼近く・神社の境内

　ワイワイと黒山の人だかりができている――その前に、少年に扮したカワウソがいる。
カワウソ「おとっつぁんが事故にあい、おっかつぁんはふせってしまい、弟、妹た

ちの面倒もみなきゃいけない……」

涙ぐんで聞いている村人たち――

カワウソ「――そう、相談したら、心優しい鬼太郎さんが、かわいそうな子供たちのためにと協力してくれて、できあがった、このキタロンＺ――めったにできない限定品！　さあ、これが最後の１０ケースだ！」

と、そのときヨロヨロとくる朱の盆、いかにも芝居っぽく、バタッと倒れる。

朱の盆「金はいくらでもいい！　おれに売ってくれ！」

カワウソ「大変だ、死にかけてる！　さあ、これを飲んで」

と、朱の盆に飲ませる。

パチッと目をあける、朱の盆――

朱の盆「わーっほんとだ！　こんなにピンピンなっちゃった！」

と、ヘタな芝居――。

あせる、村人たち――

村　人「お、おれに売ってくれ！」

村　人「おれに、おれにっ！」

カワウソ「一人、１ケースまでだ！　並んで並んで！」

飛ぶように売れる、キタロンZ――。

13

神社裏

ホクホクとやって来る、朱の盆――。

朱の盆「鬼太郎人気を利用して商売するなんざあ、ペテンの天才だぜ、カワウソ！」

と、旗や道具が放置され、カワウソの姿が見えない。

朱の盆「あれ？」

と、床の下から箱の中、そんなところにいるわけないだろ――と、いう所まで探して――

朱の盆「カワウソ、カワウソ、どこにいったんだ、カワウソ……？」

と、あたりにいない――。

手文庫の中を探すと、カラッポ――。

朱の盆「だ、だまされたーっ」

と、汗タラリ――

14

同・おべべ沼

札束の詰まった箱をもってくる、カワウソ。
カワウソ「エヘヘヘ、バーカめ！　他人を信じるほうがバカなんだ!!」

15　庵

御簾の前、朱の盆、土下座して――
朱の盆「もうしわけありません」
御簾の向こうのぬらりひょん――
ぬらりひょん「なにーっ！　カワウソが金をもって逃げたー……」
カッカと青筋をたてる、ぬらりひょん。
ぬらりひょん「病んだりとはいえ、このわしをペテンにかけるとは！　朱の盆、わしの名にかけてもカワウソを逃がすな！　つかまえて金をとりかえせ！」
朱の盆「は、はい！」
ぬらりひょん「金をわたさんようだったら、おしおきしてもかまわん!!」

16　神社の境内

鬼太郎、目玉のおやじ、ねずみ男いると――
ねこ娘やってきて――
ねこ娘「神主さんにきいたら、つい、さっきまで、商売してたらしいよ！」
鬼太郎「一足ちがいか！」
目　玉「まだ、近くにおるかもしれん！　さがすのじゃ！」
鬼太郎「はいっ、父さん！」

17　同おべべ沼

沼の間の草むら――
と、カワウソ、コンビニの袋をあけて弁当やお菓子や缶ジュースを広げて、
カワウソ「人を騙して食べる弁当はうまいが――だました相手がぬらりひょんとなるとそのうまさもひとしおだぜ」
と、ザワザワとあたりに不気味な気配――カワウソ、ヒクヒクと鼻をひくつかせる。

カワウソ「この匂いは……、妖怪⁉」

と、まわりの草むらからヌッ、ヌッ、ヌッと姿を現す、不良河童たち。

と、さいごに朱の盆が顔をだす。

朱の盆「おまえのおかげでぬらりひょん様から、怒られてしまった！　おとなしく、もうけた金をおいていけば、許してもいいが……、そうでなきゃ、ただじゃ、おかねえぞ、カワウソ‼」

カワウソ「ただじゃねえってことは、金をくれるのか‼」

朱の盆「なにーっ、かまわない、‼　おしおきしてしまえっ！」

と、ワーッと襲いかかる小妖怪たち。

カワウソ、地面の砂をバッバッバッとかけて——

カワウソ「そう、簡単につかまるかーっ！」

と、タッタカ、逃げ出す。

18　森の中

朱の盆「逃がすなーっ！」

ドドドと森の中を追う、不良河童たち。
森の中をドドド、ダダダと行ったり、来りするのが見える。
と、ガサガサと草むらが揺れて――
カワウソ「しつこいやつらだ」
と、懐のタンマリふくらんだ巾着をみやり――
カワウソ「この金、簡単に渡すかよ」
と、カワウソ、ソーッと行こうとする。
その前にヌッと顔を出す、不良河童たち――。
不良河童Ａ「いたぞーっ！」
カワウソ「しまった」
と、木々の間から次々とカワウソにおそいかかる、不良河童たち――。
カワウソ「うわーっ！」
多勢に無勢、不良河童たちに襲われて川に落ちる。
追おうとすると、仲間たちに――
不良河童Ａ「追うな、その先は滝だぞ！」
朱の盆「あいつ！」

19 同・滝壺

滝壺で大根洗いをしている、寿太郎じいさん——

と、滝に流されてくる、カワウソ——プカプカと水面に浮かんでくるカワウソ——。

と、寿太郎、「？・」と気づいて棒でひきよせる。

と、気絶しているカワウソ——その顔を見やり——

寿太郎「これは、誰かと思ったら、光太郎でねえか……」

× × （C・M） × ×

20 老人の家

貧しげな一軒屋——。

21

同・座敷

ハッと気がつく、カワウソ――。

と、カワウソ、布団に寝かされている。

カワウソ「ここは……、そうか……、川においつめられ、滝壺に落ちて……」

と、寿太郎、入って来る。

寿太郎「光太郎、大丈夫か？」

カワウソ（声）「誰かと勘違いしてるみたいだけど……、ま、いいか、口裏をあわせとけ」

カワウソ「あ、ああ、大丈夫だ」

寿太郎「もう、3日間も寝込んだままで、心配しとったよ」

カワウソ「え、ええ、道に迷って滝からおちてしまって……」

寿太郎「すまんのお……、わざわざ、こんな山奥まで来てくれて……」

22

風呂場・たき場

ごえもん風呂から煙が上がって――

寿太郎、一生懸命、まきをくべながら、火吹き竹でふく。

寿太郎「みんな、元気か？」

カワウソ「は、はあ」

寿太郎「東京の生活も大変じゃろ……。つらいことがあったら、いつだってかまわんから、村へ帰ってこいと、父さんに伝えてくれ……」

23

同内

カワウソ、湯船につかって――

カワウソ「は、はあ……」

カワウソ（声）「そうか、こいつ、東京へ出ていった家族と勘違いしてるのか。きっと孫かなんかと思ってるんだな……」

24

同・たき場

ガサガサと草むらが揺れて、ヌッと顔を出す、朱の盆。

朱の盆「おジイさん！　このあたりで、あやしいやつを見なかったか？」

寿太郎「見た！」

25

同内

ハッとなる、カワウソ――

ザバッと風呂の中に顔をつける。

カワウソ「朱の盆……!?」

26

同・たき場

寿太郎「顔がでかくて、くさくて、あやしげなやつじゃ」

朱の盆「そいつはどこに!?」

寿太郎「おまえじゃ」

ガクッとなる、朱の盆。

朱の盆「隠すとためにならねえぜ！」

寿太郎「うちにはわしと孫しかおらん」

朱の盆「ちぇっ」

と、行く、朱の盆。

27 同内

カワウソ「これじゃ、表にも出られないな」

カワウソ、ホッと胸をなでおろす。

28 同・茶の間

カワウソ、ツンツルテンの浴衣をきてくる。

寿太郎「父さんの子供のときの浴衣じゃ、さすがに小さかったかな」

カワウソ「う、うん」

寿太郎「さ、お粥ができとる、なんか食べな力がでんぞ」

カワウソ、お粥などごちそうになって――

寿太郎、うれしそうに目を細めて見やり――

寿太郎「うちの息子たちはみんないい息子たちだったが、おまえの父さんは、中でも、とくにデキがよくて、優しいやつじゃった」

と、懐かしそうに――
寿太郎「病気などしとらんといいがと、心配しとったんじゃが……。よかった、よかった……」
と、本当に嬉しそうな寿太郎。
カワウソ（声）「じいさん、一人なのか……、息子たちがみんな、でていっちまったんだな」
と、そのとき、ドンドンドンッと表のドアを叩く音がする。
カワウソ、ギクリとして――
カワウソ「（ｏｆｆ）まさか、またあいつらか⁉」
寿太郎「お客さんのようじゃ、ちょっと待っててくれ、光太郎」
と、出ていく、寿太郎――。
カワウソ「わるいがいまのうちに――」
ソーッと裏から出ていこうとすると、行ったと思った寿太郎――障子から、サッと顔をだし――
寿太郎「ゆっくり、してってくれよ」
カワウソ、あわてて、ダッとお膳のまえに戻って――
カワウソ「は、はいっ」

ひや汗を流す、カワウソ。

29 同・玄関

寿太郎、ガラガラと玄関を開けて――

寿太郎「どなた様かいのう……？」

と、見やると――デーン――一見して、ヤクザ風の男たち、三人、玄関先にたっている。

ヤクザA「ジイさん、今日という今日はたちのいてもらうぞっ！」

寿太郎「ああ、これは、こんにちはあ……」

ヤクザB「また、とぼけ作戦かあ……？」

30 同・裏口

カワウソ、ランニングに着替えて、裏口から出ていこうとして、ソッと玄関のほうをうかがう――。

と、寿太郎、大柄なヤクザたちに囲まれた形になって――

ヤクザB「もう、その作戦にはのらないんだよ」
カワウソ「!?」
と、ヤクザA、証文を出して――
ヤクザA「じいさんには息子がいるだろ」
エッと見やる、カワウソ――。
×　×　×
カワウソ「!?」
×　×　×
寿太郎「はあ、息子たちは東京で活躍しておるようで。手紙は来ないがきっと、元気にやっとることでしょう」
×　×　×
カワウソ「やっぱり……、息子たちにも裏切られてひとりぼっちだったのか……。おれを孫に間違えたのも、寂しかったんだな」
×　×　×
ヤクザA「その活躍しているおまえの息子が、この家をタンポに金をかりたんだ。これが証文じゃ」
×　×　×

カワウソ「年老いた父親の住んでる家をタンポに……、ひでえ……。でも、いまのおいらには関係ねえや」

と、一歩、行こうとする――が、たちどまる。

× × ×

ヤクザA「この金、耳を揃えてかえせねえかぎり、この家はおれたちのもんなんだ」

寿太郎「そうですか……。それはそれは、ありがとうございます」

顔を見合わせる、ヤクザたち。

ヤクザA「だめだぜ、兄貴！」

ヤクザC「しようがねえ、年寄りに力づくもなんだと思ったが……」

× × ×

カワウソ「すまねえ……」

と、一歩、進んではたちどまるカワウソ。

× × ×

ヤクザA「さあっ、一緒にくるんだ！」

と、ヤクザA、ヤクザB、寿太郎を左右から挟むと――と、はずみでドンッとたおれる、寿太郎。

× × ×

ハッと立ち止まる、カワウソ――。

カワウソ「じいさん……」

×　　×　　×

寿太郎「わるいがまたにしてください。いま、孫が遊びに来てくれとるもんで」

ヤクザA「いいかげんなことを言うな！　息子たちは、ここ数年、誰も近づかねえって知ってるぜ」

寿太郎「ほんとなんです！」

×　　×　　×

カワウソ、ジッと見やっているが――なにかに耐えるようにジッと目をつぶる。

踵を返して、行こうとする。

その背後から寿太郎の声――

寿太郎（声）「光太郎！　光太郎!!」

カワウソ「おらあ、関係ねえ……」

寿太郎（声）「光太郎！　光太郎ーっ」

カワウソ「……」

31　同・家表

ヤクザたち、車のところまで寿太郎をつれていこうと、ひっぱりあげる。
そのとき、その前に飛び出してくる、カワウソ――
カワウソ「まてーっ、おれのじいさんをどこに連れてくんだ！」
寿太郎、ニコッとなって――
寿太郎「光太郎……」
ヤクザC「な、なんだ、ほんとにいたのかい」
と、カワウソ、サッと巾着を差し出す。
カワウソ「ここに金がある。父さんの借りた金は返すから、証文を破ってくれ」
エッとなるヤクザたち――。
ヤクザB「こ、こんなはした金で証文がやれると思うか！」
カワウソ「じゃ」
と、服のあちこち、靴の底、帽子の中、はては口の中、おへその中と、あらゆるところから、お札が出てくる。
あきれて見やる、ヤクザたち。
山のようになったお札――目の前にして

カワウソ「これで勘弁してください」
　と、巾着の中を確かめて――
ヤクザA「兄貴、たしかに」
ヤクザC「おれたちもヤクザじゃねえ、ちゃんと金を返してくれれば、それでいいんだ」
　と、ビリビリと証文を破る。
　その様子を木の上から覗いている、カラスいて――

32　山道

　カワウソ、山道をやって来る。
カワウソ「おれ、なんで、あんなことをしちまったのかな……、いままでは金以上に、たよれるものはないと思ってたのに」
　と、そのとき、ザザザザ――
　草むらが揺れて不良河童たちがカワウソのまわりを取り囲む。
　ヌッと現れる朱の盆――そして、その背後に立つ、ぬらりひょん。
ぬらりひょん「カワウソ！　朱の盆の目はごまかせてもこの、ぬらりひょんはごま

かせんぞ！」
朱の盆「そうだ！　そうだっ！」
ぬらりひょん「金を出せ！　ださねば、ひどい目にあうぜ」
カワウソ「金はねえ！」
ぬらりひょん「まだ、しらをきる気か？」
　カワウソ、巾着を引っ繰り返して——
カワウソ「ほんとにないっ！」
朱の盆「な、ないみたいですよ」
ぬらりひょん「なにーっ！」
カワウソ「でもよ、巾着はカラッポになっちまったけど、胸の中になんかあったかいもんがつまっているような気がするんだ」
　唖然となる、ぬらりひょん、朱の盆と不良河童たち——
　カワウソ、一人で気持ちよさそうに、
カワウソ「妖怪、金じゃねえ……、やっぱり心と心の繋がりだ——そう、思わねえか」
　カーッとなる、ぬらりひょん。
ぬらりひょん「なにを言っておる！　ええい腹だたしい！　やってしまえっ！」

カワウソ、エッと我にかえって――

カワウソ「えっ！」

カワウソ、不良河童たちに囲まれて、ボカスカとこづきまわされる。

そのとき、駆けつける、鬼太郎、ねずみ男、ねこ娘たち――。

鬼太郎「待てっ！」

鬼太郎、不良河童たちに髪の毛針をとばし――

ねこ娘、かきむしり――

ねずみ男、黄色いガスを噴射する。

鬼太郎「まだ、こりないか、朱の盆！」

朱の盆「こ、こりゃ、たまらんっ！　逃げましょう、ぬらりひょん様!!」

ぬらりひょん「鬼太郎ごときになにをおたおたしているのだ！」

ぬらりひょん、仕込み杖をぬいて――

ぬらりひょん「鬼太郎、ここであったが百年めじゃっ！　かくごしろっ!!」

ビュンと白刃を横なぐりにふるう。

鬼太郎の髪の毛、ハラハラと切りおとされる。

ダッと避ける、鬼太郎――。

背後に大きな木――逃げ場がない。

ぬらりひょん「とどめだっ!!」
と、ふりおろした剣を、チャンチャンコを巻き付けてふせぐと、まきとって宙に飛ばす。
ぬらりひょん「おおっ!!」
鬼太郎「ぬらりひょん！」
と、下駄を飛ばす。
コンコーンと下駄、ぬらりひょんのおでこにあたる。
ぬらりひょん、朱の盆や不良河童たちの後を追って——
ぬらりひょん「おのれーっ！　おぼえておけよーっ!!」
あとに残されたのは——
ボコボコにタンコブを作っている、カワウソ——。
カワウソ「鬼太郎……」
ねずみ男「てめえ！」
ボカスカとカワウソを殴るねずみ男。
ねこ娘「やめろっ、ねずみ男——」
バリバリッと顔を十字にひっかかれるねずみ男。
ねずみ男「な、なんで、おれは被害者だぜ」

目　玉「自分だってペテン行為は日常茶飯事じゃろ」
カワウソ、観念したようにあぐらをかいて――
カワウソ「すべてはオレがペテンでやったことだ……、煮るなり、焼くなりなんとでもしてくれ」
鬼太郎「ああ、カワウソ、おまえにはバツを与えなきゃならない」
カワウソ「……」
鬼太郎「頼むから、もうすこし、あの一人暮らしの老人の相手をしてくれないか？」
カワウソ「（エッとなって）鬼太郎⁉」
と、そこへバサバサとおりてくる、カラス。
鬼太郎「さっきの様子をバケガラスが見ていて、話してくれたんだ……」
カワウソ「おれ、いつも一人で……。友達もいなくて、金だけが頼りで根性まがっちまった……。でも、あのジイさんはちがった……」
目　玉「もう、わしらが説教する必要もあるまいて」
鬼太郎「そうですね、父さん……」
と、遠くから寿太郎の声がする。
寿太郎「光太郎！　光太郎‼」
鬼太郎「いってやりなよ」

カワウソ「す、すまねえ」
　と、ダッと飛び出していく、カワウソ。
ねずみ男「だけどよ、おれの金は」
ねこ娘「いいからだまってろ、ねずみ男」
　と、フーッとつめを出す。
ねずみ男「こええーっ」

33 家

　家の前、寂しげに佇む寿太郎。
　家への道を駆けていく、カワウソの姿あり――
カワウソ「じいちゃーん！」

（おわり）

